



<b>碧南市</b>	所属議員	石川輝彦 ・ 神谷 悟
------------	------	-------------

産業目線

【活動選定項目】	カーボンニュートラルに向けた取り組みについて	
<b>具体的取り組み項目</b>	<p>【長期】 ・再生可能エネルギーの利用促進 ・省エネルギーの促進 ・緑地の保全と整備の促進</p> <p>【中期】 ・市内公共施設への充電ステーションの設置 ・水素ステーションの誘致</p> <p>【短期】 ・次世代自動車購入補助制度の拡充 ・公用車への次世代自動車の導入促進</p>	
前回まで 活動状況	<p>○カーボンニュートラルへの対応に向けた諸施策の提言 ⇒会派による市長への要望書提出、9月議会（神谷悟）・12月議会（石川輝彦）に一般質問を実施</p> <p>○令和4年度予算の獲得 ⇒次世代自動車購入費補助事業の拡充により個人購入者に対する補助制度の実現 庁用車維持管理事業において水素燃料自動車2台と電気自動車1台の購入費の予算化を実現</p>	
今回 具体的活動	<p><b>【先進地の視察】</b> 2022年4月27・28日で会派による行政視察を実施。 ○小田原市・・・EVを活用した新たな地域交通モデル事業について（環境省によるモデル事業） ⇒「小田原市再生可能エネルギーの利用等の促進に関する条例」の制定により、「市民参加型再生可能エネルギー事業」と認定し、奨励金の交付を実施。 ・電気自動車を“動く蓄電池”として捉え、イベントや災害時に動く蓄電池として活用。 ○つくばみらい市・・・EVコミュニティバスの導入について ⇒平成29年3月にゼロカーボンシティ宣言を行うと同時に、コミュニティバスのEV化の検討を開始。現在、国交省の補助制度を活用し、1台のEVバスを導入。</p> <p><b>【6月議会一般質問への反映（石川輝彦）】</b> Q：非常事態時の電源の確保ができ、脱炭素にも貢献するEV車両の導入に拍車を掛けては。 A：今年度、車内外から給電できる車両を1台導入する予定である。導入台数を増やすことは、必要な取り組みなので、今後の利用状況等を踏まえ検討する</p>	<p style="text-align: center;">【図や活動の様子が分かる写真など】</p>  <p style="text-align: center;">《小田原市導入のEV車両》</p>  <p style="text-align: center;">《つくばみらい市導入のEVバス》</p>
今後の活動	<p>・短期目標の更なる充実を図るとともに、中長期目標の達成に向け、様々な角度から調査・研究を行いながら、市に対して提言活動を進め、カーボンニュートラル達成に向けて取り組む。</p>	

議会だより 16日

【碧南市】開会。大竹敦子、加藤厚雄（公明）生田綱夫（志政会）石川輝彦（市民ク）鈴木みどり（みらいク）の5議員が一般質問した。市側の主な答弁は次の通り。

非常用電源としての電気自動車（EV）の活用 本年度、車内外から給電できるトヨタ自動車の「シーボッド」1台を庁用車として導入する予定。利用状況を踏まえて台数増も検討する。